

武蔵野市議会議員
フカキミの

なんでもご相談ください!!
090-8025-4457

深田貴美子 《いっぽいっぽ通信》



実績集+地域課題 (ローカルマニフェスト) ピックアップ集

地方議員に必要なのは「みなさまの声を聴かせていただく姿勢」+「市政を俯瞰する見識と判断」です。
みなさまと一緒に築いたこれまでの実績と、気がつかせていただいた地域の課題をピックアップ版でお届けいたします。
1期目の公約達成率80%、任期4年間新規提案90事業(うち事業化66事業達成率73.3%)、仕掛中+新規マニフェスト6分野62事業。

達成しました!

進行中です!

取り組んでいます!

▶▶▶ 良環境・良福祉のまちづくり

「支えられ感」のある
武蔵野の《新しい子育て》

▶0~15歳の医療費無料化

▶「新しい武蔵野の保育」を約束する
「子ども協会」の財団化

▶待機児童解消
▶「保育の質」の更なる向上

待機児童数=139名(新基準)
※旧基準では252名
平成22年12月1日現在

見守りと地域連携による
武蔵野の
《新しい高齢者福祉》

▶特養・老健等の施設の増設
▶認知症グループホームの実現

▶福祉でまちをデザイン!
市民参加で「地域福祉計画」策定

▶円熟した人生をより生き生きと
元気に、安心して暮らせる
見守りネットワークの実現
——介護付き高品質
高齢者マンション事業者の誘致
——家族介護支援

65歳以上の高齢者=27,234人
一人世帯=8,398人
(住民基本台帳ベース)
高齢化率=20.3%
平成22年9月30日現在
特養待機高齢者数=330人
平成21年8月現在

多様性の受容と
支えあいの武蔵野の
《新しい障害者(児)福祉》

▶障害児の放課後の居場所
(障害者福祉センター内「さくらっこ」、
関前「あすは」)

▶「みどりの子ども館」での
相談機能(ハビット)と
デイケア(ウィズ)の充実

▶就学から就労支援まで
途切れのない支援体制の構築
——「発達支援センター」(仮称)の設置
——幼保小中連携システムの構築

▶▶▶ 魅力と活力ある都市再生のまちづくり

活気ある産業の
まちづくり

▶公共事業を前倒しと
前払い金の基準の緩和

▶武蔵野の文化と歴史を継承する
観光事業の推進

▶都市型産業の育成と産学民公の
協働のまちづくりの基盤整備
——「まちづくりセンター」(仮称)の設置

不況業種認定数
平成19年 59件
平成20年 562件
平成21年 793件
平成22年 1118件

情報環境(ICT)の推進

▶市役所雷害対策「雷サージ」の設置

▶市内小中学校・公的施設の雷害対策
「雷サージ」の設置

▶情報基盤整備と情報ネットワークの
形成による活力あるまちづくり
——「まちづくりセンター」(仮称)を
拠点とした情報基盤整備

都市再生の
まちづくりのために

▶「ファシリティ・マネジメント」の
導入による市民サービスの向上

▶下水道の再構築と
隣区への汚水流出の
浄化等改善策の推進

▶都市基盤整備とコミュニティ単位の
特色ある防災に強いまちづくり
——PREに基づく都市基盤と
公共施設の再整備

PRE(public real estate)とは、公
的不動産経営戦略=行政サービス
向上と費用対効果を目指した自治
体における経営戦略のこと。

成果を重視する
自治体経営の確立

▶「ダイバーシティ・マネジメント」の
導入による中高年・障害者雇用の拡大

▶基金運用における
デリバティブ商品の規制と廃止

▶財政援助出資団体の統廃合
▶職員の時間外労働の適正化

職員数と職員1人当たりの人口
武蔵野市 1,028人(131.0人)
三鷹市 1,041人(169.3人)
調布市 1,278人(168.8人)
平成21年4月現在

▶▶▶ 持続可能なまちづくり

環境と健康を守る
まちを創る

▶任意の予防接種ワクチンの公費負担
(子宮頸がん、肺炎球菌、Hibワクチン)

▶災害時における
防災備蓄医薬品の充実と更新

▶医療⇄福祉⇄介護・看護
⇄生活支援の連携による
安心できる暮らしの構築
——療養病床削減に伴う
在宅応診医療システムの構築

平成20年版 武蔵野市の死亡原因
がん 32.2% 肺炎 10.4%
心疾患 16.4% 脳血管疾患 8.3%

安全を約束するために

▶災害用トイレの設置・拡充
(1校につき10基)

▶特別な支援が必要な方のために
福祉避難所・避難所の設置・拡充

▶被災後の初動体制と
予防(BCP/BCM)の防災のまちづくり

BCP(事業継続計画)、BCM(事業継
続経営)とは、自然災害、テロ等の緊
急事態において、損害の最小化と事
業の継続・早期復旧を可能とする経
営計画とその管理手法。

▶▶▶ 真の市民参加と文化創造のまちづくり

男性も女性も共に輝く
武蔵野の
《新しい男女共同参画》

▶DVに対応する女性総合窓口の設置

▶男女共同参画センターの開設の推進

▶男女が個人として尊重され、あらゆる
分野で平等に活動できる社会の構築
——あらゆる人々が相談に立ち寄れる
新センターの開設

市役所における女性管理職
1人 2人 1,028人
部長 課長 正職員
平成22年10月1日現在

子どものなぜ?
不思議?を育てる
武蔵野の
《新しい教育》

▶8校13棟の小・中学校
耐震改修工事の前倒し実施
▶校務・教務用パソコンの
教員1人1台整備
▶地デジ対応移動型デジタル・テレビの
小・中学校全校フロア設置
▶「スクール・ソーシャルワーカー」による
不登校・ひきこもり児童生徒への
訪問・相談支援

▶中学校への「特別支援教室」の開設
▶子どもの放課後における
学びと安全のための
「放課後子どもプラン」の導入検討

▶武蔵野の特色ある教育の確立
——「教育センター(仮称)」の早期開設
▶シティズンシップ教育
▶情報リテラシー教育

不登校児童生徒数
小学校 中学校
平成20年 13人 57人
平成21年 16人 60人

生涯学習と連携した
武蔵野の
《真の市民参加》

▶「武蔵野プレイス」の理念の明確化

▶自治基本条例の早期制定

▶「武蔵野プレイス」の機能の明確化

市立図書館の1人当たり蔵書冊数
武蔵野市 4.9冊
浦安市 7.07冊
三鷹市 3.5冊

武蔵野の課題は—— ズバリっ「インフラだ!!!」

1 「水循環社会の構築」と「都市基盤整備」を急げ!

勇気を奮って!

★ 上水道の東京都との一元化

私たちが「武蔵野のおいしい井戸水」を飲み続けるために、市は今こそ決断をしなければなりません。北町と境にある貯留タンクは、震度5弱の地震に耐えることができません。管路の老朽化も激しく、市が自力で耐震改修するには10年の工事期間と323億円の財源を確保しなければなりません。災害時対応も含めた、安定供給を図るためにも、市は早急に東京都との一元化にむけて都との協議に入るべきです。

勇気を奮って!

★ だから、汚水の垂れ流しを止めよ!

たった1.3ミリから4ミリの降雨で、雨水と一緒に排泄汚水が善福寺川、野川、神田川等に垂れ流しになっています。「希釈(雨で薄まっていけばいい)」からもっともっと「水循環社会の形成」へと環境思考の大転換が必要です。「地下水保全条例」も必要です。

勇気を奮って!

★ 「ファシリティ・マネジメント(FM)」に基づくまちづくりの下地づくり

土地活用から施設整備・管理+市民の使い勝手の良さを合理的かつ効率的に運用していく手法です。インフラ(上下水道・ガス・電気・通信+道路交通)整備から、公共施設の耐震改修・改築・再配置に至るまで、総合的なまちづくりに取り組む必要があります。

実現しました

7 北町保育園移転

豪雨の際には、園舎に戸板を立てて、浸水を防ぐような応急措置に、もう子どもたちをさらしておくわけにはいきません。平成25年4月を目途に、近隣の適地に移転が実現します。

思い切って!

8 旧中央図書館跡地利用

〈教育センター(仮称)+子ども発達センター+社協+公社+男女共同参画センター(仮称)=市民サービス向上〉

それぞれのセンターは、市民生活に密着し、相談機能を内包しています。「市民にとって、誰にもわかりやすく、気軽に立ち寄れること」も大切です。丁寧かつ迅速な行政と市民による支援体制を創るためにも、連携のとれる「複合施設化」が必須です。

現実を見据えて

2 外かく環状道路

市は地下高速道路については、速やかな推進を国と都に求め、大きく舵を切りました。地上部については、40年前とまちの事情が違います。概成道路の「吉祥寺通り」の「拡幅の事業化」は、東部地区の生活道路への流入交通を解決するに違いありません。また、地上部道路の下に建設を予定している「武蔵野市第二次下水道計画」について、市は市民に説明をし、市こそ判断をしなければなりません。同時に吉祥寺駅圏として、まちづくりの展望も共に考えるべきです。

根本解決を!

3 東町道路交通問題

〈約2700台+約1200台/約6000台=宮本小路+東十一小路/吉祥寺通り〉
外環本線青梅街道インターが設置されれば、なおのこと生活道路に流入する通過車両は増加します。本宿小学校、第三中学校の通学路とも重なることから、地域の方々と警察&行政の力を合わせた、「生活道路への流入を防ぐ根本的な解決策」が必要です。

今こそ!

9 三鷹駅北口周辺再整備計画

〈セントラル・ステーション計画〉

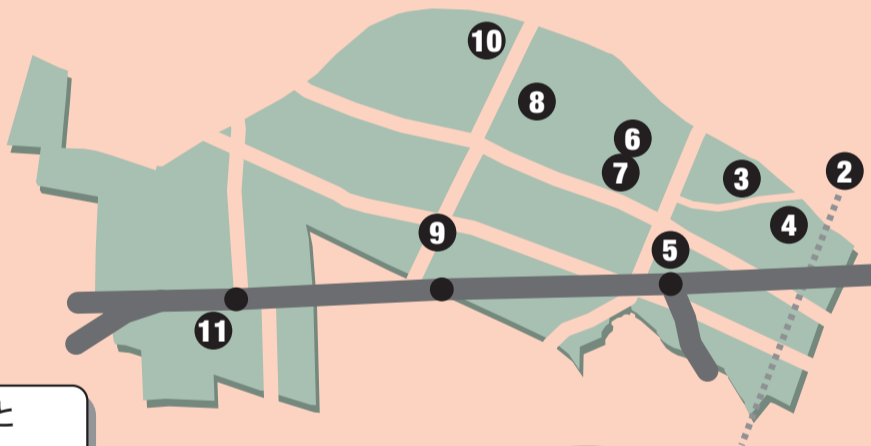
①人とバスと車が交錯する駅前ロータリー、②作りかけの市道129号線、③85億円で14年間塩漬けの土地、④玉川上水の景観、⑤芸能劇場の利活用等。駅前ゾーンとしての一定のスケールを持った幅広い計画を、市が市民と共に考えるべきです。

大胆に!

10 新武蔵野グリーンセンター建設と周辺のまちづくり

〈売電+給湯+複合施設〉

近隣住民への「給湯」ぐらいは、考えてみたらどうでしょう。一街区に100億円を超える事業にするならば、テニスコートは地下化、施設の複合化など、市民サービス向上を目指すべきです。いずれにしても、水を必要とするグリーンセンター建設は、平成28年完成予定です。上水道の都水の一元化の議論を、早急に始めるべきです。



地道な努力を!

4 下水道合流式改善計画と雨水の分流化

〈希釈〉から〈水循環〉へ

1.3mm~4mm/時の通常の雨で、希釈された私たちの汚水(排泄物+生活雑排水)は、杉並区の善福寺川に垂れ流されています。市は、平成25年を目途に、東町に総事業費30億円の「下水道合流改善施設」を設置しますが、垂れ流しの半分しか改善されません。武蔵野市は、雨水と汚水が管渠で同居の「合流式」です。下水の8割は雨水。雨水浸透ますや雨水タンクによる、雨水の地中への浸透と共に、雨水(中水)の更なる資源活用が必要です。

具体化を

5 吉祥寺駅周辺再整備計画

とにかくインフラ整備が基本です。そして大規模地権者さまのご協力無しにまちは変わることができません。「NEXT-吉祥寺」などと、いつまでも夢を描いているばかりではなく、具体的な整備計画(ゾーニング+工程表+財政計画)を策定すべきです。

理念を掲げて!

11 「ひと・まち・情報創造館 武蔵野プレイス」は総工費約80億円……年間コスト、約6億円?

この一大事業は、財団法人「生涯学習推進事業団」が指定管理団体として、すでに担うことが決まっています。「市民活動」「青少年支援」「生涯学習」「図書館」の複合施設は、まさに「市民参加のまちづくり」の礎となる「孵卵器=インキュベーター」です。

改善しましょう

6 北町浸水対策

都市型豪雨のたびに、北町は床上・床下浸水の危機にさらされます。市は、平成27年3月を目指して、雨水貯留施設の建設を予定しております。床上浸水は何とか防げますが、根本的な解決には至りません。併せて、雨水パイパス管路整備(昭和44年策定第二次下水道計画)は、外環道路地下に予定されています。市は、道路計画周辺住民に早急に説明をする必要があります。

*** ** * 番外 重大課題! *** ** *

再考せよ!

A このご時世に、財政援助出資団体を作り続ける武蔵野市

市は、(財)武蔵野市土地開発公社をはじめ、10団体の財政援助出資団体を運営しています。加えて、学校給食に対応する「武蔵野市給食・食育振興財団」もまもなく設立されます。理事長は2年の任期で、年収約700万円+退職金120万円。嘱託職員は年収360万円+退職金90万円です。JALの年金問題でもそうですが、個別の権利や生涯計画は尊重されるべきものですが、この時代、格差というものはずっと公共からは正していかなければならない。また、本市では指定管理といいながら、公募をせずに財団が担っている。国政においては「天下り」「渡り」の議論が高まっている以上、雇用機会の拡大、民業圧迫の無い入札開放の大切な流れの視点からも、本市における今後の「財団設立の理念」と「適正な職員配置体制と指針」は明確にすべきです。

絶対にだめ!

B デリバティブ運用を止めよ!

まぎれもない金融派生商品=デリバティブである「マルチ・コーラブル定期預金」で、市は平成19年から合計25億円運用しています。この「権利行使型期限付解約特約定期預金」は、1年間の短期で、固定金利、元本保証ですが、肝心の解約権利は金融機関にあります。平成20年のリーマンショックでも明らかのように、円相場の変動、豪ドル暴落=円急騰の恐怖や商品自体の崩壊等、相場に精通していない自治体には、極めてリスクのある運用です。近隣自治体では、目の届きにくい外郭団体にデリバティブ運用を図り、30年の塩漬け基金が発生しています。

市民とともに!

C 社協こそ、地域の福祉力アップのエンジンだ!

社屋移転で注目を集めた「武蔵野市民社会福祉協議会」。2003年社会福祉法に「地域福祉計画」が定められ、「地域福祉」を担う社協の役割はますます重くなりました。従来の「行政=社会福祉」「社協=地域福祉」という役割分担はもはや成り立ちません。まさに、社協こそ住民自治の「福祉を創る」原点です。だから、拠点とともに、その「あり方」も市民とともに決めるべきです。